



認定看護師だよ!



がん化学療法看護認定看護師 廣川 玲奈



今年7月、当院2人目のがん化学療法看護認定看護師になりました廣川です。現在は、外来化学療法室で勤務しています。

10 数年の病棟勤務から、がん治療を受ける患者さんが副作用に苦しむ姿をみて悩んだり、抗がん剤の取り扱いに迷うことがあったりすることから専門的な勉強をしたいと思い、認定看護師を目指しました。

役割として患者さんが、がん化学療法の治療選択肢となった時点からの支援、治療を継続しながらよりよい生活を送るためのセルフケア支援を行います。がん薬物療法は、どんどん進歩し、それに伴い副作用も脱毛・吐き気・皮膚障害など身体的なダメージも様々です。

今、外来・病棟で治療を受ける患者さんの副作用を少なくするために患者さんに向き合い、生活を支えていく支援の重要性を実感しています。これから、がん化学療法を受ける患者さんを支えるために治療前から患者指導に取り組み、スタッフの皆様と共に、ケアを考えていきますので気軽に声をかけてください。求められる副作用のケアを示しながら、安心して治療を受けることができるようにサポートさせていただきます。これから宜しくお願いします。



血管外漏出

がん化学療法看護認定看護師 山崎 文光子

今回は、多くの相談を受ける抗がん剤の血管外漏出について取り上げます。抗がん剤の血管外漏出は、発赤、腫脹、疼痛などの皮膚障害が、数時間～数日後には憎悪し、潰瘍形成や皮膚組織の壊死へと移行する恐れがあります。



確実な血管確保と固定、定期的な観察による漏出の早期発見が重要

【漏出の早期発見】

1. 血液逆流の確認
2. 針刺入部周囲の腫脹、発赤の確認
3. 痛み、違和感などの確認



漏出性皮膚障害を起こす抗がん剤

壊死性抗がん剤	少量の漏出でも紅斑、発赤、腫脹、局所皮膚壊死の形成する可能性がある
炎症性抗がん剤	発赤、腫脹と炎症性変化を起こすが壊死に至らない
非炎症性抗がん剤	炎症や壊死を起こしにくい

壊死性抗がん剤の一覧

エビルピシン®	ドセタキセル®
カルセド®	アブラキサン®
アドリアシン®	パクリタキセル®
フィルデシン®	エクザール®
ピノルビン®	オンコビン®
ナベルピン®	

血管外漏出が起きてしまったら

